

(33) 大理石海岸の大理石

参考文献(1)を手引きに探査に行った。この場所は小生の実家からあまり遠くない。国道45号線の気仙沼と陸前高田の間に位置している。宮城県唐桑町岩井沢の海岸である。国道にある案内板は小さい上に、進むべき脇道は細く、複雑に入り組んでいる。近傍に近づいたなら、地形図でしっかりと経路を確認する必要がある。後掲しているが、大理石海岸の案内板には、湾全体が赤文字で「大理石海岸」と表記されている。これはこれとして正しいのであるが、本当のびっくりする大理石海岸はこの案内図の右手の岬の突端である。訪れたなら是非ともここに立つべきである。地形図中ではこの岬の所に「大理石海岸」の文字が印字されており、岩井沢の湾内ではない。真の大理石海岸の位置を赤丸で示している。「この岬から切り出された巨大な大理石の1枚岩が、東京三越の玄関の像の台座に使用された」と案内板で紹介されている。現在でも、昔切り出した物であろう巨大な長方体の大理石がごろごろしている。

45号から大理石海岸へと車を進めると、行き止まりが漁港というか浜辺である。ここに、駐車場があり、また後掲の掲示板がある。辺り一帯の岩石が大理石である。が、目の前は護岸をコンクリートで打ち固められている漁港でもある。海に向かって左の方に大理石の岩礁群がある。左の方に道を数十m進んでいくと自然の浜がある。この浜で大理石の転石を自由に拾えよう。

もとの駐車場に戻って、今度は海に向かって右側の方に進んでいこう。民家の間の小道を突き抜けている道である。ずんずん岬の先端へと進んで行き、林を突き抜けると、目の前に広い太平洋を背景にした広大な大理石の岩盤上に行き着く。



地図 国土地理院 2万5千分の1地形図「陸前広田」

探査日 2009年1月

参考文献

(1)「海辺の石ころ図鑑」、渡辺一夫、POPLAR、2005年。

鉱山跡写真



行き止まりの海岸（＝漁港）にある掲示板



漁港の左手。大理石の岩礁群



全て大理石の岬。カメラの視野が小さ過ぎる。



大理石の切り出し面状に立つ。

採集鉱物写真

品名 大理石（結晶質石灰岩）
化学組成 共に CaCO_3
色 白、白っぽい灰色
断口

解説

(1) 参考文献では、岩井沢の漁港をそのまま大理石海岸と見なしていたようである。掲示板にもそう書いているので仕方がないか。実は、岩井沢漁港及び漁港の両側も大理石で出来ている。漁港に向かって右側の岬の中を歩いていくと、岬の突端に出る。海岸には大理石を切り取った跡と思われる広い平坦な岩礁がある。又、数メートル立法の長方体をした搬出可能な大理石石材が目の前に幾つも転がっていてもいる。正に、ここが「大理石海岸」である。地形図もその通りである。

(2) 漁港の浜には、殆ど大理石の転石は見あたらなかった。が、漁港の左手の遊歩道を少し進んでいくと、隣り合わせの浜に降りられるけもの道がある。この浜には石灰岩や大理石の石ころが豊富である。

(3) 石灰岩が熱変成を受けて細かい方解石の結晶の集まりに変化したものが大理石となる。